

●●●●● 専門看護師の紹介 ●●●●●

小児看護専門看護師
松本 祐佳里

小児看護専門看護師として、病気を持つ子どもとそのご家族が、「自分たちらしい生活を送るためにはどうしたらいいのか、何が必要か」を共に考え実践していくお手伝いをしています。時には、入院中の子どもと遊ぶことでストレス発散を促したり、お母さんやご兄弟の話を聞いて不安の軽減を図ったりしています。小児看護の領域は、年齢層も幅広く、抱えている病気も様々です。子どもたちの成長に伴って抱えている問題も多岐にわたるため、どこに相談していいのか悩むことが多いのではないでしょうか？病気を持つ子どもにとって、自宅―地域―病院が一つのチームとして、子どもたちの成長を支えていく社会が必要です。学校や地域の方々とも情報交換を行い、病気を持つ子どもたちが、自分の力を十分に発揮し、笑顔の絶えない生活を送ることができるように支援していきたいと思えます。

現在は、入院病棟だけでなく外来でも活動しています。子どもとそのご家族が困ったことがあった時に、気軽に相談できる存在でいたいと思えますので、いつでも声をかけてください。

がん看護専門看護師
鶴崎 まり子

がん看護専門看護師とは、がんの患者さん、ご家族、地域の方々に対し、水準の高い看護ケアを効率よく提供する知識と技術を有している者です。私は、がん相談支援センターで、患者さんやご家族、地域の方々の心配事や気がかりを少しでも解決できるようお手伝いをさせていただいています。相談内容は、「告知について」「治療や副作用と普段の生活との両立や工夫について」「退院後の療養場所について」など多岐に渡りますが、診断前でも、治療が始まってからでも時期は問わず、対応させていただきます。その際、私が大切にしていることは、「その人らしく生活(人生)を送ることができるように支える」ということです。がんになったというだけで、心のエネルギーが減弱し以前は難なくできていたことでもできなくなったりします。ですが、その方が何を望み、何を大切にしているのか、に注目しながら十分にお話を伺う、このようなやりとりの中で、患者さんやご家族は考えを整理することができ、自らの力で何が一番良いのかを選ぶことができ、行動に移すことができるのだと思っています。

少しでも皆様のお役に立てたらと思っています。どうぞ本館1階がん相談支援センターへお越しください。

急性・重症患者看護専門看護師
久間 朝子

人は誰も、ある日突然として命に関わるようなことに遭遇する可能性を持っています。それは事故であったり、病気であったり、入院中の急変だったり状況はさまざまです。そのとき、身体には年齢や病気の段階に関わらず劇的に多くの変化が起こり、医療は集中的に高度な技術や機器などを駆使して命を救うことに徹します。急性・重症患者看護専門看護師は、このような状況にある患者さんやご家族への身体と心のケアや調整を行う役割を持ちます。

看護が特に守り尊重するのは、命はもちろんのこと、人としての権利やその人の生きざま、人生のありよう、ご家族の支援する力です。「大変なことになってしまった」「まさか自分の大切な人がこんなことになるなんて」といった経験は、患者さんだけでなくご家族や親しい方々にも大きな影響を及ぼします。ご不安や直面している恐ろしさ、何をしたらいいのか見当がつかないなど心に多くの負担を持っていると思います。また、患者さんの代わりに決めなければならないことも重く心にのしかかってくる場合があります。そういった時は、どうぞ気兼ねされず声をおかけください。近づきたいけれど近づけないような張り詰めた状況の中にあるあなたの大切な人を、他のスペシャリストと協働し、あなたと一緒に支援させていただきます。

福岡大学病院
病院長 田村 和夫

新年の挨拶

明けましておめでとうございます。本年が皆さまにとって良い年になることをお祈りします。

昨年12月1日より病院長を拝命しました田村(専門は腫瘍・血液・感染症内科)です。新任のあいさつを兼ね、福岡大学病院の現状と取り組みについて簡単に述べたいと思います。

当院は1973年にこの七隈の地に開院して40年が経過いたします。2011年に新館を開設し、2013年4月には本館の全面改装を終え、ベッド数915床、1年間の入院患者数は30万人(平均在院日数14日)、外来患者数は35万人を数える、福岡市西南部の医療圏における中核病院であります。患者さんは福岡市内に限らず九州一円、山口県からも受診されており、今にも増して気を引き締め、患者さんにやさしい、レベルの高い医療を展開していかなければならないと考えています。

当院の今年の大きな目標は、業務改善です。本館・新館の全面オープンにより新人の看護師・薬剤師が多く入ってまいりました。現在は、すべての診療科(部)において、医師ばかりでなく看護師、薬剤師を中心とした、メディカルスタッフがチームを組んで患者さんの診療にあたるチーム医療が主流です。スタッフの育成とチーム力の強化、業務改善を図ることにより、患者さんに、より満足いただける医療を実践できるものと思っています。これには利用される患者・家族の方のフィードバックが必要です。みなさまの建設的なご意見をお待ちしています。

医療を取り巻く環境について、次の2つのことをお伝えしたいと思います。

1)医療費と診療報酬改定

医療を取り巻く環境は時代とともに変遷し、その内容は多様化してきています。また医療の進歩は日進月歩で、そのスピードはますます速く高度化し、そして高価になってきています。まさに医療費の増大は国家財政をゆるがし、家庭への大きな負担になってきています。当院では、種々の医療・福祉制度を紹介し、医療費が高価であるがゆえに最適の医療が受けられないような状況を避けるために、医療相談窓口を設置し研修を受けた相談員やソーシャルワーカーが対応しております。

今年は、診療報酬の改定の年になっています。同じ診療を受けても保険点数の変更から多少支払窓口での請求金額が異なることが予想されます。ご理解をいただければと思いますし、ご不明な点はお尋ねください。

2)健康ライフの推進

日本は超高齢化社会を迎え、当然のことながら患者・家族の方も高齢者が多いのが現状です。高齢者に多い疾患や足腰が弱っての転倒・転落は、食事や運動により防げる場合が少なくありません。毎日の散歩や体操、バランスのとれた食事をこころがけ、病気になっても医療者のアドバイスを沿って体力の維持に努め、「元気な患者さん」になりましょう。



看護部の紹介



副病院長・看護部長
中川 朋子

福岡大学病院は特定機能病院として、質の高い、高度な医療を提供するためにチーム医療に取り組んでおります。その中で病院職員の過半数を占める看護職員は、院内各部署に配置され、患者さんにとって最も身近な存在として、24時間の接点業務を行い、チーム医療に大きく貢献しています。「患者中心の看護 ー誠実・責任・創造ー」を理念に、患者さんの心に寄り添う、安心安全な看護実践に向けて、看護の専門性を発揮しています。看護部では、患者さん・ご家族の思いを尊重した看護が提供できる看護師、プロフェッショナルとして自律主体的な使命感を持った看護師の育成に向けて、充実した教育体制を整えております。また、職員が一人ひとりの強みを生かして、生き生きとやりがいを持って働き続けられる職場作りを目指しています。

以下に、看護部の取り組みの一部を、ご紹介させていただきます。

看護体制

患者さんへの看護は、受け持ち看護師制とパートナーシップ・ナーシング・システムという看護体制によって提供します。パートナーシップ・ナーシング・システムは、受け持ち患者さんを二人の看護師で担当します。二人の看護師のそれぞれの経験と強みを活かし、患者さん中心の看護を共に考え実践します。患者さんを生活者としての視点で捉え、患者さん一人ひとりの持つ力を支援する看護を大切にしています。いつでも患者さんの一番身近な存在として寄り添い、患者さん、ご家族と喜びをわかちあえる看護を目指します。



担当患者さんに2人であいさつ



2人で確認し合うことで安全な看護実践

継続看護

患者さん中心の看護、患者さんの生活に寄り添う看護を実践するために、2013年4月から、病棟と外来の看護チームを一つにしました。同じ診療科の病棟と外来の看護師が一つのチームになることで患者さんの情報を円滑に迅速に共有できるようになりました。昨今の入院期間の短縮に伴い、外来機能の強化が望まれる中、自宅での療養生活を支援する看護師の役割は重要です。外来と病棟それぞれの患者さんの治療経過や家族背景などを知る看護師が患者さんの思いを受け止め、継続治療、療養生活の支援に協働しています。外来から入院、退院から外来をつなぎ、切れ目ない継続看護を目指しています。

チーム医療の要として

質の高い、高度な医療を効果的・効率的に提供するため、チーム医療に取り組んでいます。栄養サポートチーム、緩和ケアチーム、褥瘡ケアチーム、感染対策チームなど、多くのチームが活動しています。患者さんの療養生活や思いを一番よく知る看護師は、チームの一員として患者さんの声をチームに届け共有し、多職種の専門性を光らせ強みを活かします。また、看護師の中でも特別の教育を受けた専門看護師や



栄養サポートチームカンファレンス



認定看護師など専門領域の看護師たちも共に組織横断的に機能し、チーム医療を支えています。現在、新生児から高齢者まであらゆる発達段階にわたる看護、急性期・救急看護、がん・脳卒中・糖尿病看護など幅広い領域で専門領域看護師が活動しています。本号より、専門領域の看護師の紹介をさせていただいております。どうぞ、お気軽にご相談ください。

教育体制

超高齢社会を迎え、医療・看護を取り巻く環境は大きく変化し、患者さんの抱える健康課題は複雑・多様化しています。当院は特定機能病院として高度医療を提供する急性期病院です。そのような病院機能を担う看護師として、専門性の高いスキルとあたたかい心を備えた看護師育成に努めています。また、専門職業人としての社会貢献・組織貢献を使命に、プロフェッショナルとして、高い倫理観と品格を備えた看護師でありたいと考えています。看護の専門性を高めるため、専門看護師・認定看護師の知識・技術を学び、優れた臨床判断・看護実践ができる看護師、また、常に患者さんにとって良い看護を模索しながら、患者さんの思いや多様な価値観を尊重できる看護師を育てる教育を行っています。経験の浅い看護師の実践をサポートするため、研修時から先輩看護師が介入・サポートしています。スタッフ全員で育てる、育ち合うを教育理念とし、日々、質の高い看護を目指し学び続けています。



静脈注射の研修

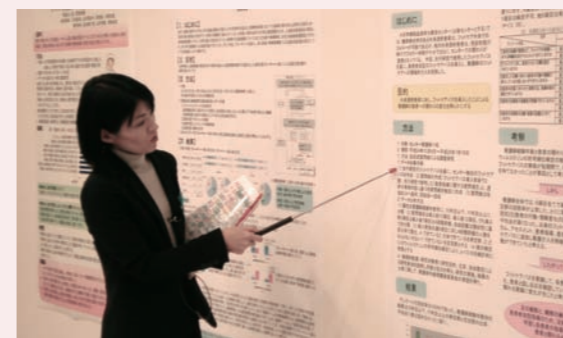


救急時対応の研修

看護の質向上と効率化に向けて

私たち看護師は、日々のケアに満足するのではなく、患者さんにとって、よりよい看護を常に模索しています。ベッドサイドでの気づきや疑問を大切に、その疑問を科学的アプローチに基づき明らかにするために、看護研究に積極的に取り組んでいます。専門職として看護研究に取り組み、研究の成果を日々のケアに活用してエビデンスのある看護として質の向上に努めています。

また、組織を効果的・効率的に運営し、患者さんに満足していただける医療・看護を行うため、業務改善にも取り組んでいます。今後は、多職種と協働し、更にチーム力を高める取り組みを行っていききたいと思います。



看護研究発表



看護研究・業務改善ともに優秀賞・特別賞は表彰

